

第8回炎症性腸疾患関連消化管癌診療ガイドライン作成委員会 議事録

【開催日時】2024年7月11日(木) 11:30-12:00

【開催会場】名古屋コンベンションホール 4F 408 (WEB併用ハイブリッド開催)

委員長：石原聡一郎

出席者(敬称略、50音順)

・現地参加

阿部真也(東京大学)、稲葉小春(金原出版)、岩佐陽介(奈良県立医科大学)、浦岡俊夫(群馬大学)、江本成伸(東京大学)、大平 学(千葉大学)、小松更一(東京大学)、小山文一(奈良県立医科大学)、品川貴秀(東京大学)、下田将仁(東京慈恵会医科大学)、杉原健一(光仁会第一病院)、田中信治(JA尾道総合病院)、豊島 明(日本赤十字社医療センター)、松田圭二(同愛記念病院)、宮崎麻衣(金原出版)、吉川周作(土庫病院)

・Zoom参加

新垣淳也(浦添総合病院)、池内浩基(兵庫医科大学)、大北喜基(三重大学)、小形典之(昭和大学横浜市北部病院)、斎藤 豊(国立がん研究センター中央病院)、徳永卓哉(徳島大学)、仲瀬裕志(札幌医科大学)、長沼 誠(関西医科大学)、東 大二郎(福岡大学筑紫病院)、藤井俊光(東京医科歯科大学)、二見喜太郎(福岡大学筑紫病院)、松浦 稔(杏林大学)、水島恒和(獨協医科大学)、山岡雄祐(静岡がんセンター)、山本 隆行(四日市羽津医療センター)、渡邊健司、渡辺憲治(富山大学)、渡谷祐介(広島大学外科)

協力者：品川貴秀、野口竜剛、小松更一、津島辰也、船越薫子

【資料】

1. ガイドライン作成委員名簿
2. 前回議事録(第7回委員会)
3. 外部委員会評価の結果と回答

【審議事項】

1. 委員名簿を確認した。
2. 進捗について確認した(病理含む各論完成、外部評価完了)。
3. 外部評価の結果と対応(抜粋)について報告した。

外部評価における主な指摘として、パブリックコメントの記載が無いこと、患者・家族会が作成委員に含まれていないこと、文献検索ワードの記載が無いこと、エビデンス選択基準やCQが不明瞭であることなどが挙げられていた。ただし、紙面の都合上

でやむなく載せられなかった部分や、特にエビデンスに乏しい領域では致し方ない部分もあったと考えている。

4. 今後のスケジュール（英文化予定、改訂、発刊予定日）について報告した。

CQを中心とした英文化、英文誌（JARC など）への掲載をめざす。

改訂は5年後を目安に検討している。

質疑：

杉原先生「新たなエビデンスの報告などに応じて改訂時期はフレキシブルに対応でもよいのではないか」

一石原) そのように対応する。

杉原先生「次回以降の改訂において患者・家族会の代表を選ぶ際は、特定の患者層の意見とならないよう十分配慮する必要がある」

一石原) IBD 班会議とも相談しながら検討していきたい。

5. 本研究会、消化器外科学会総会にて「炎症性腸疾患関連消化管腫瘍診療ガイドライン」として先行販売、7月20日正式刊行予定であることを告示した。

6. 謝辞

7. 今後の委員会に関する提案

大腸癌研究会プロジェクト研究「炎症性腸疾患合併消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的研究」と統合し、本委員会を継続していく。